

# 魅力発信！えひめ農業NOW

令和元年12月

## 【お知らせ】

魅力発信！えひめ農業NOWは、県ホームページ(※1)で、県下全地区の内容について、閲覧できます。

※1 掲載場所：ホーム＞仕事・産業・観光＞農業＞農業振興＞愛媛県農業技術情報サービス  
※2 この動向は、12月中に各普及地区から報告のあったものをとりまとめたものです。

～愛媛県農林水産部農業振興局農産園芸課～

〒790-8570

愛媛県松山市一番町4丁目4-2

(TEL) 089-912-2558

(FAX) 089-912-2564

<http://www.pref.ehime.jp/noukei/>

# 「魅力発信！えひめ農業NOW」（12月分）

## 東予地方局地域農業育成室

### ■「菌床しいたけ」の農福連携、最盛期を迎え順調に作業

○地域農業育成室が農福連携ビジネス推進事業の一環として、本年5月にマッチングを行った、西条市の共同受注窓口である社会福祉法人「とうふ工房ていずい」と、新居浜市の農業法人「株式会社大愛（代表取締役 宮部真司（県農業指導士））」との間で、「菌床しいたけの除袋」等の作業が順調に続いている。



菌床しいたけの袋あけ作業

- 作業内容は、①袋に入った状態の菌床を培養室から取り出し、②しいたけを成長させるために袋を取り除き、③水洗浄し、④菌床を生育室に移動する一連の作業で、週に4日程度、時間は4時間で、利用者は2～3人で作業している。
- 現在、菌床しいたけは生産の最盛期を迎えており、同法人としても作業従事者の確保が出来たことで大変助かっている。
- 同室は、さらに作業の新規開拓や事業所の利用拡大について支援を行う。

## 東予地方局産地戦略推進室

### ■「寒じめいちご」の着色促進に光反射シート導入

- 産地戦略推進室は、通常のいちごよりも糖度を高め食味にこだわった「寒じめいちご」栽培を実証しており、「あまおとめ」に加えて、今年度から「紅い雫」でも実施し、生産拡大に取り組んでいる。
- 食味に加えて果実の着色を促進するため、12月中旬に、栽培架台に光反射シートを展張した技術実証ほを設置し、さらなる高品質化を図っている。
- 翌年1月には、糖度15度以上になった「寒じめいちご」の関西方面への出荷を予定しており、高単価での販売を目指す。



光反射シートを設置した様子

## 今治支局地域農業育成室

### ■里芋増産に向けて講習会を開催

- 今治支局地域農業育成室は12月24日、JAおちいまばり里芋部会の栽培講習会で会員23人に対し、来年度の栽培開始に向けた準備について講習を行った。
- 里芋は栽培期間が長いことから土づくり等の励行や、かん水が容易なほ場を選ぶこと、種芋の越冬対策について具体的に指導した。
- 当室は、広域選果場稼働を見据え、JAとともに生産拡大を推進してきた結果、栽培面積と生産者は平成30年の16.4ha・48人から、今年は産地づくりビジョンの目標値を超える21.1ha・57人となるなど大幅に増加しており、来年度も更に増加できる見込みとしている。

### ■甘平の Queen スプラッシュ生産向上に向けて赤い傘型袋を用いた試験を実施中

- 今治支局地域農業育成室は、露地栽培における甘平の Queen スプラッシュ生産向上に向けた実証試験を実施中。
- 今回、試験したのは、露地栽培の甘平に新しく開発された「赤い傘型袋」を用いて、外観の向上を目指したもの。
- 加えて、露地栽培の甘平に傘型袋を被覆することにより、雨よけ栽培ができ、ハウス栽培と同等の効果を得ることも期待している。
- 当室では、今後も定期的（月1回）に調査を行い、袋被覆の効果を確認する。



赤い傘型袋の被覆様子

## しまなみ農業指導班

### ■エコえひめに取り組むレモン生産部会が発足

- しまなみ農業指導班は12月16日、「しまなみレモンを作ろうかい」（部会員19人）を対象に、上浦町井口公民館で栽培講習会を開催した。
- 「しまなみレモンを作ろうかい」は、今治市上浦町のレモン生産者が減農薬栽培を目指し、10月16日に発足した会で、当指導班では、「エコえひめ農産物」認証に向け、引き続き指導していく。
- 同会の事務局は、(株)楽農研究所（内子町）が行うこととなっており、都市部量販店での販路拡大や加工品開発も期待できる。



レモンの特別栽培について学ぶ部会員

### ■夏季レモン栽培に向けて検討会を開催

- しまなみ農業指導班は12月24日、夏季レモン栽培に向けた検討会を町、JA等関係機関6名で開催した。
- 本年産夏季レモンの生産や品質の状況を報告し、今後の生産対策等について協議した。
- 現状は、生産量が不安定であるため、夏季せん定や施肥・水管理、着果対策を組み合わせることで生産安定を図ること、また、冬季の防除が不十分であることから、防除体系の検討を行うこととなった。
- 来年は、関係機関や生産者と実証圃での調査結果を検討しながら、夏季レモン栽培体系の確立を目指す。
- 管内では今年度、「次世代につなぐ果樹産地づくり推進事業(県単)」を活用した当指導班の指導により、施設レモンが約30a（7戸）増加することとなっている。



夏季レモン検討会の様子

### ■今治の青年農業者が都内で販路開拓を行う

- 今治支局地域農業育成室は11月30日と12月14日、今治市内の青年農業者が実施した愛媛セレクトショップ「いよかん」（東京都豊島区）での直売会で、販促活動を支援した。
- 今治市青年農業者協議会が実施しているスキルアップ講座（9月に実施）に、同ショップの

那須氏を講師に招き、関東における農産物販売について学んだことをきっかけに、同協議会が実践を兼ねて販売会を企画したもの。

- 当日は、各農家が消費者と情報交換をしながら自家農産物の販売・PRを行ない、参加者から「東京で販売する場合の規格や価格設定、具体的なお客様のニーズなど学ぶことができた」との感想が聞かれた。
- また、えひめ食の大使館等へも、各農家がサンプル提供を行う営業活動を実施した。



農産物を説明する青年農業者

## 今治支局産地戦略推進室

### ■(株)大三島みんなのワイナリーの6次産業化の取組みを支援

○産地戦略推進室は今年度、愛媛6次産業化サポートセンターと連携し、(株)大三島みんなのワイナリーにおける6次産業化の推進として、総合化事業計画の作成を支援。

○12月16日、同計画が農林水産省より認定されたことを受け、同ワイナリーの醸造施設において認定証授与式が執り行われ、伊東豊雄代表取締役が、「認定は、活動の励みとなる。ワインに係る取組みを地域の人たちと共に育てていきたい」と今後の抱負を述べた。



認定授与式

○今年産ぶどうを使ったワインの製造本数は約

2,700本を見込んでおり、12月21日から地元の直販所やインターネット等を通じて販売が始まった。

○当室は、認定された同計画の着実な達成に向け、原料果実の安定供給が図られるよう、引き続き生産技術の確立に取り組む。

### ■花木栽培指導力向上研修会を初開催

○産地戦略推進室は12月4日、花木栽培における指導者の技術向上を目的に、今治市において、東予地方局管内の若手普及指導員及びJA営農指導員を対象とした研修会を初めて開催した。

○当日は、普及指導員11人、JA営農指導員6人が受講し、花木栽培圃場では、ビブルナム・ティナスとピットスポラム、メラレウカの収穫作業を実践するとともに、切り取った枝については、JA花卉集荷場において、出荷できる規格を満たすよう調整作業を行った。



調整作業の説明

○参加者からは、「収穫と調整作業を実習することができ、花木について理解を深めることができた」「花木栽培で最も難しい技術は、収穫と調整だと感じた」との声があった。

## 中予地方局地域農業育成室

### ■高浜復旧モデル地区のワーキングチーム会を現地で開催

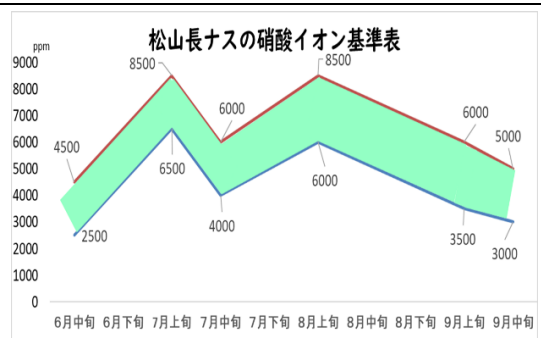
- 地域農業育成室は12月23日、第5回高浜地区復旧モデルワーキングチーム会を、工事中のモデル地区で開催。JAえひめ中央や松山市、中予局の関係者23人が復旧状況を確認し、今後の指導方針を検討した。
- 当日は、農林水産研究所の協力により、ドローンで上空からモデル園の全景を撮影。年度内の完了を目指して急ピッチで進む作業の進捗を記録した。
- 今後は、市農業指導センターによる土壌分析の結果を確認しながら、来春の植栽に向けて、土づくりを行うこととし、生産者の意向（栽培品種等）と園地条件を踏まえて、効率的で生産性の高い植栽方法や補助事業の活用を関係機関で協議・提案していくこととしている。



復旧状況を確認し、植栽方法を検討

### ■松山長ナスの生育診断指針を作成

- 地域農業育成室は今年度、JA松山市と連携して松山長ナス（庄屋大長）の生育診断指針を過去3年の調査データを基に策定。
- 松山長ナスは特産の伝統野菜の一つであるが、安定した収量を確保するためには、指導員においても長年の経験と勘が必要。
- この経験と勘に基づいた栽培技術を数値化し、硝酸イオンメーターと土壌ECテスターで計測した数値データを、生育診断指針にある硝酸イオン濃度基準チャートに照合することにより、生育状態が判定でき、適正な追肥等の対策指導を実施することができる。
- 今後、講習会や園地巡回指導等で活用するとともに、指導機関においても分析器具の拡充を図ることとしている。



硝酸イオン濃度基準チャート

### ■就農研修生に対する農業基礎講座の実施

- 地域農業育成室は12月11日、松山市農業指導センターで研修中の就農希望者8名に対し、農業基礎講座を開催。
- これは、就農希望者が安心して農業経営を開始できるよう、基礎的な技術や知識を習得するために実施しているもので、当日は、病害虫の発生と対策及び農業経営について講習した。
- 研修生からは、防除に関する質問や意見が多く出されるなど、特に病害虫に対する関心が高く、熱心に受講していた。



講座を通して基礎的知識を習得

### ■農業の担い手へ広がれ、GAPの考え方！

- 地域農業育成室は12月4日、東京オリンピック・パラリンピック大会等で注目が高まっているGAPへの取組みと認証取得を推進するため、北条地区の青年農業者を対象にした研修会を開催。
- 今回は、GAPの5本柱の内、「労働安全」「環境保全」について説明。農作業安全については事

例を紹介しながら、GAP の考え方である「農作業を安全に行えるよう、事前にリスク評価を行う」等、注意喚起を行った。

- 一方、昨年グローバル GAP を取得した農業大学校（対象作物：愛媛果試第 28 号）へは、農産園芸課と連携し 12 月 10 日に更新支援を行い、再認証の手続きを進めている。
- 同室は、今後も GAP の考え方を農業の担い手に周知し、「より良い農業」の普及を図る。

### I 危険作業等の把握

農業生産活動における危険な作業等の把握



機械等の危険な使い方

頭をぶつけやすい障害物 17

労働安全について事例をもとに紹介

## ■柑橘の収穫はお手のもの 今年で 3 年目となる農福連携による作業委託

- 松山市平田町の大内明男氏（県農業指導士）は、地域農業育成室の斡旋により、3 年前から農福連携による伊予柑等の収穫作業を実施しており、今年も 12 月 16 日から作業が始まった。
- 作業を行うのは、就労継続 A 型事業所ハートフルの施設利用者 5 名。昨年も作業を経験した利用者もあり、施設支援員の指導のもと、慣れた手つきでテキパキと作業をこなしている。
- 大内氏は、「仕事は丁寧で真面目、作業も慣れて早くなっており、大変助かる」と話す。また、福祉施設も「農作業で得られる達成感や責任感は、本人の自立や成長を促し一般就労にもつながる」と積極的。
- 農福連携による作業委託が継続している事例は、管内ではまだまだ少なく、同室ではその要因を解析するとともに J A と連携し、本事例をモデルとして今後のマッチングや取組みの推進に活かすことにしている。



慣れた手つきで作業する施設利用者

## 伊予農業指導班

### ■青年農業者が施設園芸の革新的技術を学ぶ

- 伊予農業指導班は 12 月 19 日、施設園芸で複合環境制御によるトマト栽培に取り組んでいる農業者と青年農業者との交流会を開催。
- 当日は、青年農業者等 10 名が普及組織先導型革新的技術導入事業により、ミニトマトを栽培している施設等 3 施設について事例学習するとともに、今後の施設園芸の取り組み等について意見交換を行った。
- 参加した青年農業者は、複合環境制御システムの導入方法や導入コストと生産量の拡大、労働力の軽減程度等について質問が飛び交うなど革新的技術への関心の高さが伺えた。



複合環境制御施設について研修

### ■青年農業者が法人化について意見交換

- 伊予農業指導班は 11 月 26 日、松前町で 10 月に法人化した「まさき Rookies」と青年農業者の意見交換会を開催。
- 当日は法人化に関心を持つ青年農業者 5 名と J A 研修センターの研修生 1 名が参加し、「ま

さき Rookies」の取組みについて研修するとともに、今後の農業経営等について意見交換を行った。

- 意見交換は、法人化のメリット・デメリットの考え方や、レタスの面積拡大と松山圏域における需給バランス、県外への販路開拓、有機農産物の販売等多岐にわたり行われた。
- 参加者からは「法人のメリットが具体的に分かった」「若い農業者同士の話し合いができ良かった」などの感想が聞かれるなど有意義な会となった。



「まさき Rookies」の取組みを説明

### ■中山栗の低樹高剪定講習を実施、剪定技術の波及を図る

- 伊予農業指導班は12月6、7日、中山栗の低樹高剪定技術の普及を目的に、伊予市中山町の4か所で剪定講習会を開催。講師には優れた剪定技術を有する西予市城川町の西山良幸氏を招き、64名の農家に対し、カットバック剪定の技術習得を図った。
- さらに、中山町の14集落では普及指導員等を講師とする講習会を開催し、144名に対し低樹高剪定の指導を行った。
- 農家からは、「樹高が下がり栽培管理がしやすくなった」「継続して低樹高剪定を行うことで園地が明るくなり、受光環境が整ってきた」といった声が聞かれ、低樹高栽培に対する関心が高まっている。
- 今後、指導班ではモデル園地を中心に剪定状況の確認と指導を行い、中山町全体への低樹高栽培の更なる波及を目指す。



カットバック剪定のポイントを説明

## 久万高原農業指導班

### ■青年農業者が写真展で久万高原町の魅力発信

- 久万高原町青年農業者連絡協議会は、12月20日から1月14日まで道の駅「天空の郷 さんさん」にて写真展を開催する。
- これは、久万高原町の農業の魅力を町内外に発信するとともに、農業研修制度を幅広く周知し、移住農業者を増加させようと久万高原農業指導班及び久万高原町と企画したもの。
- 写真展では、会員らの作業風景やプロフィールを紹介しているほか、久万高原トマト部会の歴史年表や農業公園アグリピアでの農業研修制度についても展示している。



写真展で農業の魅力を町内外に発信

### ■久万高原町の郷土の味を新たなメンバーが伝承

- 元地域おこし協力隊ら有志5人のグループは、高齢化により12月末をもって活動を終了する農家女性組織「さくらぎ」の活動やレシピを引き継ぐこととなった。
- 「さくらぎ」は、平成6年の設立以来、久万高原農業指導班が加工指導等の活動支援を行ってきており、県内でもいち早く都市と農村との交流(グリーン・ツーリズム)を取り入れ、平成18年度には農山漁村いきいきシニア活動表彰で農林水産大臣賞を受賞している。
- また、在来種のとうきびを使用したクッキー「コーンのめぐみ」や「たかきびのだんご汁」は地元学校給食にも出されるなど、郷土の味を伝える食育活動も長年行ってきた。
- 同指導班は、これまで地域内で培ってきた郷土の味を伝承し後世に残すため、今後は有志グループの活動支援を行うこととしている。

## 中予地方局産地戦略推進室

### ■「さくらひめ」の市場出荷拡大に向け生産者と関係者が協議

- 産地戦略推進室及び地域農業育成室は11月29日、JAえひめ中央本所で「さくらひめ」の市場出荷拡大に向けた打合せ会を開催した。
- 当日は、今年度の新規栽培者を含む生産者3名と、JAえひめ中央の生産・販売担当、農産園芸課職員等が出席し、県側から「さくらひめ」の推進方針や中予管内の栽培状況、時期別の採花見通し等を、JAからは出荷要領や規格等について説明を行った後、仕向け先や集荷方法、精算等について質疑や意見交換を行い、系統出荷にかかる情報を共有した。
- 中予管内の「さくらひめ」生産者は、現在、JAの他、直売所や独自の販売先等への出荷を行っているが、今回の会合を機に、生産者と関係者が連携して高品質な切り花の県外出荷の拡大に取り組み、市場における認知度や評価の向上に繋げていくこととした。



市場出荷の拡大に向けて協議

### ■家庭で楽しむパクチー料理レシピ発表会を開催

- 産地戦略推進室は12月7日、愛媛調理製菓専門学校において「家庭で楽しむパクチー料理レシピ発表会」を開催。
- 通常はエスニック料理店等で食べる機会の多いパクチーを、家庭料理にも取り入れてもらい、東温産パクチーの購買層の拡大に繋げることを目的に、同校の協力を得てレシピ開発したもので、当日は一般消費者10名と関係機関が出席し、専門学校の学生が考案した家庭料理5品を試食した。
- 参加者からは、「パクチーを初めて食べたが、食べやすかった」「もっとパクチーの味が強くて良かった」など様々な感想が出された。
- 発表会終了後には、レシピ開発を指導した専門学校と関係機関による検討会を開催し、レシピの効果的な活用方法や、東温産パクチーの利用拡大等について意見を交換した。



専門学校生がパクチー料理を披露

## 南予地方局地域農業育成室

### ■ブラッドオレンジのワインが誕生、注目が高まる

- 地域農業育成室では、「ブラッドオレンジ」の安定生産、産地拡大及びPR活動を行っており、直近の栽培面積は37.4ha、平成30年産の生産量は335トンで国内生産の9割以上を宇和島市が占めている。
- JAえひめ南は「ブラッドオレンジ」を使ったワインを12月23日から道の駅きさいや広場等で販売を開始し、同商品は、約6年間試行錯誤して作り上げ、ブラッドオレンジ果汁だけで造ったワインとしては世界初の商品。



注目のブラッドオレンジワイン



- 同商品はフルーティーな香りを残すため、アルコール度数は5%と低めとし、飲みやすい仕上がり。価格は、2,500円(300ml)で、販売本数は6,000本。
- なお、ワインの醸造に適するよう果汁を濃縮して製造するため、生産は2年に1回の見込み。
- 12月16日には、同JAの山本組合長が知事を訪れ、完成報告、販売開始の報告をしたこともあり、発売前から、各方面から問い合わせが相次ぎ、消費者をはじめ関係者の関心の高さがうかがわれた。

### ■さといも機械共同利用体制整備に向けた専用機械の有用性を学ぶ

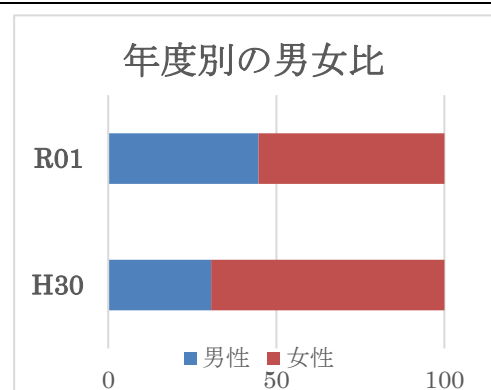
- 地域農業育成室は12月12日、管内サトイモ生産圃場において、省力機械化生産体制の整備のため、生産者を対象に専用機械の実演会を開催し、10人の参加を得た。
- 実演会では、掘り取り機1台、分離機3台、マルチ剥ぎ機1台の試運転を実施し、それぞれの営農規模や労働力に応じた機械の実用性を評価した。
- 生産者からは、「作業時間を短縮でき省力化に向けて利用を検討したい」「労働力に応じて導入してみたい」などの意見があった。
- 同室では、今後も地域一体となり機械化による省力生産体制を整備する。



最新の試作分離機の実演

### ■労働環境改善目的の簡易トイレの利用状況は好評価

- 地域農業育成室では11月23日、柑橘の収穫作業を行うアルバイトやボランティアの労働環境改善のため、宇和島地区農業改良普及事業推進協議会の事業を活用し、収穫時期の2ヶ月間限定で宇和島市吉田地区の3カ所に設置していた簡易水洗トイレの撤去作業を実施。
- 設置期間中の利用者アンケート調査の取りまとめの結果、38人から回答があり、男女比は男性45%（昨年度30%）、女性55%（昨年度70%）と男性の比率が高まり、男性への理解も徐々に進んでいる。
- トイレに対する評価も「良い」が95%、「次回も利用したい」が97%と好評価であった。
- 当室では、平成29年度から簡易水洗トイレ設置による労働環境改善に取り組んでおり、今年度は、JAえひめ南が独自に4カ所設置するなど、関係者の意識も高まりつつあることから、引き続き労働環境の改善に取り組む。



利用者の年度別の男女比

## 鬼北農業指導班

### ■鬼北のゆずをフランスの展示会に出展！（海外への販路開拓）

- 鬼北農業指導班は12月3～5日、海外への販路開拓を目的にブランド戦略課と連携して、フランス・パリで開催された展示会「Food Ingredients Europe」にゆず30kg及び加工品を出展し、海外の業者にPRを行った。
- 展示会では、3日間で約40件の商談が行われ、その中で来年度以降の輸出拡大を睨んでいた生果の要望は少なかったものの、既にJAや地元企業で製品化されている果汁を求める声

が多くあった。

- 果汁の試飲やマーマレード等の試食を通して、ゆずの味や香りを確かめた世界各国の業者から、「爽やかな風味で料理やジュースなどに使えそう」、「ゆずは初めて見たが、素晴らしい香り」などといったコメントを得ることができ、概ね好評であった。
- 同指導班は、今後、取引に前向きであった外国業者に対して、輸出事業者を通じて商談を進めることとしており、引き続きブランド戦略課やJA、地元企業と連携して輸出促進に向けて支援していく。



ゆず商品を展示



興味を示す海外業者

## 愛南農業指導班

### ■春どりブロッコリーの簡易被覆実証圃を設置

○愛南農業指導班は12月23日、ブロッコリーの高値販売が期待できる4月下旬収穫をねらった実証圃を2カ所設置し苗の定植を行った。

○4月下旬の収穫を安定させるため、厳寒期の保温対策として、これまではポリビニールのトンネル被覆を実施していたが、被覆作業に労力を費やすとともに、トンネル内の温度管理にも経験や熟練を要することから、本年度は、苗に直接保温資材を被覆する「ベタ掛け保温」を行うこととしている。

○同指導班は、被覆や管理作業の省力化の実証を行うとともに、安定した収穫量による農家の所得向上を図る。



被覆予定地の苗の活着状況の確認

### ■営農サポート研修生に対する農業技術の基礎講座を開催

○愛南農業指導班は12月10日、17日、次世代ファーマーサポート事業を活用して、JAえひめ南南宇和営農経済センターで農業研修を実施している研修生2名に対し、農業技術の基礎講座を開催した。

○就農に必要な基礎知識の習得を目的として、経営と生産技術の2講座を行い、農業簿記の必要性や経営分析への活用方法等について、河内晩柑の品種特性や主要な農作業について等の講習を行った。

○参加者からは、「現地実習では学べない農業技術の基礎知識を学ぶ良い機会になった」と好意的な意見が



農業経営の基礎について学ぶ研修生

聞かれた。

- 同指導班は、引き続き土づくり方法、病害虫診断方法等の室内講座や、剪定や接ぎ木等の現地講座を開催していく予定。

## 南予地方局産地戦略推進室

### ■認定農業者等を対象に「アボカド栽培セミナー」を開催

- 産地戦略推進室は12月2日、アボカドの新規栽培者の確保を目的に、愛南町で「アボカド栽培セミナー」を開催し、認定農業者、青年農業者、南宇和高校及び関係機関36人が出席。
- セミナーでは、NPO法人ハート in ハートなんぐん市場の長野敏宏氏を講師に迎え、アボカド栽培のこれまでの取り組みや栽培技術等について講演。
- 参加者に対するアンケート調査の結果、12戸の認定農業者等が「アボカド栽培に興味がある」と回答。
- この結果を踏まえ、同室は、NPO法人及び愛南町と連携し、新規栽培者の確保に取り組む。



アボカド栽培セミナーの様子

### ■松野町で新たに3戸がうめ栽培を開始

- 産地戦略推進室が10月から実施しているうめ栽培農家の個別巡回により、30代を含む3戸の新たな農業者が、うめ栽培を順調に開始していることを確認。
- 同室は、松野町や(株)松野町農林公社と連携し、新規栽培農家を中心に個別巡回による管理指導を行うとともに講習会への参加を呼びかけ、栽培技術の習得や農地確保の支援を行う。
- また、今年産の(株)松野町農林公社への出荷状況がまとまり、同公社に町内うめ農家から出荷された南高うめは43t（前年比101%）となった。
- 例年に比べ、粒数は少ないものの収穫時期の降雨により実太りが良く、4Lサイズ以上のものが約40%と多かったため、前年と同程度の量となった。

## 八幡浜支局地域農業育成室

### ■伊方町町見でアルバイト事業実施

- 地域農業育成室は、労働力確保に向け関係機関と連携の上、雇用促進協議会未設置地区の設立支援を進めている。
- 今年9月には、伊方町町見地区において、若手農家や有志が町見雇用促進協議会を設立、アルバイト事業に取り組んでいる。
- 同協議会は、女性アルバイトを募集するため、地区内の鉄筋コンクリート造2階建ての空き家を女性用シェアハウスとして活用したところ、6人の応募枠に対して20人の応募があった。
- 11月中旬からは温州みかんの収穫等に取り組み、うち3名は中晩柑の作業に2月末まで従事予定であることから、今後も労働力確保のためアルバイト事業を継続する意向である。



協議会員とアルバイト

## 大洲農業指導班

### ■イノシシ被害対策マップ作成

- 大洲農業指導班は12月8日、内子町大瀬上日ノ地地区住民24人と、地区の鳥獣被害対策マップを作成した。
- 被害の実態を見える化するため、地域の航空写真に、農作物被害の場所やイノシシの出没場所、防護柵や罠の設置場所、耕作放棄地などの情報を記入した。
- 地域の様子が一目で分かり、イノシシの行動ルートや耕作放棄地が明らかになり、農作物被害だけでなく、住民の生活にも支障が出てくる可能性も理解された。
- 同指導班の鳥獣管理専門員は「鳥獣被害を受ける原因は必ずあるので、その原因を見極めることが大事。地域みんなで話し合い、対策を取ることが重要」と強調し、参加者からは、今後地域でイノシシ対策について話し合い、地域全体で被害の軽減を図りたいとの意見が出された。



鳥獣管理専門員からのアドバイス

### ■経営の早期安定化を目指して

- 大洲農業指導班は12月10日、就農3年以内の農業者の早期経営安定に向けた「大洲喜多地区農業基礎研修会（第3回）」（以下 基礎研修会）を開催。
- 研修会では、「やさしい土づくり」と題して、愛媛大学農学部上野秀人教授より講義していただくとともに、大洲市認定農業者の藤本浩志氏から、現場で役に立つ小型農業機械のメンテナンス方法や管理のポイントについて実際に機械を使って研修を行った。
- 参加者からは、上野教授の講義後、「土壌はどのような改善するのが良いのか」「地力を上げるためには、どんな方法があるのか」などの質問が出された。
- 研修会終了後には、「土づくりの目的や土壌分析方法等改めて理解することができた」「忙しくて、手間を惜しむメンテナンスについて、より実践的な管理を聞くことができてよかった」などの意見が聞かれた。



小型農作業機械の安全な使用法とメンテナンスについて認定農業者からポイントを聞く参加者

### ■ぶどう産地力向上検討会および冷蔵シャインマスカット食味評価

- 大洲農業指導班は12月19日、地方局予算事業「ぶどう産地力向上促進事業」の第3回ぶどう産地力向上検討会を開催し、今年の実証結果報告や、管内で問題になっているシャインマスカットの開花異常について情報を共有した。
- また、シャインマスカットの冬季出荷技術の試験では、収穫時期別（9月、10月）、フレッシュホルダー（FH、給水器）や果実袋、ビニル袋の有無で分けた果実を試食。
- 貯蔵果実の見た目（果軸の状態、粒の色や張り）や品質（糖度、食感）をアンケート形式で評価し、FHによる鮮度保持効果を再確認した。
- JA 愛媛たいきは、冷蔵シャインマスカットを16日と20日に出荷し、市場、小売店ともに好



食味評価の様子

評で出荷量の増加を要請された。

○2年間で得た成果は、マニュアルを作成し生産者及び関係機関配布する予定。

## 西予農業指導班

### ■ニラ調製作業における農福連携の可能性を検討

○西予農業指導班は12月12日、城川町生産者の作業所で、ニラ生産の労働時間の大半を占める出荷調製作業における農福連携の可能性を検討するため、福祉施設スタッフ2名を対象に、作業の体験指導を行った。



調製作業を教えるニラ生産者

○出荷調製作業は、作業途中での品質チェックが必要なことや運送による傷みをなくすため、福祉施設利用者が生産者の作業所に出向き作業を行うのが望ましいとされ、今回、作業体験を受けた福祉施設は、スタッフの人員不足から施設外就労は難しくマッチングまでには至らなかった。

○今後、施設外就労が可能な管内事業所等との連携により、マッチングを推進していく。

### ■農福連携によるいちご農家の作業マッチング成立

○西予農業指導班は12月3日、農福連携推進モデル事業を活用し、管内のいちご農家と障がい者就労施設が出荷箱の組み立て作業のマッチングを行った。



箱折の手順とポイントを実演する農家

○いちご農家が箱折りの手順とポイント説明し、障がい者とジョブコーチと一緒に実演した。

○障がい者は初めての作業体験であったが、折り方のコツやポイントを押さえ、スムーズに作業できていた。

○いちご農家は、収穫、パック詰め、出荷と作業に追われており、出荷箱組み立て作業を委託できることで労働軽減につながると期待を寄せている。

○なお、マッチングが成立したことから、今後はJAひがしうわと連携し、いちご部会員にも呼びかけ、管内就労施設との作業マッチングを進めていく。

### ■いちご「紅い雫」輸出等新たな販路の取組み始まる

○西予市管内でいちご「紅い雫」を栽培する生産者2戸が、アジア輸出に向けた準備を進めている。

○生産者はそれぞれ個別に香港、タイ輸出に向けた手続き、業者との商談等を進めており、来年から出荷時期や量など条件が整い次第、輸出を開始する。

○本県からのいちご輸出はこれまで事例がないことから、「紅い雫」の生産管理や輸出検疫関係に必要な事項、販売面等、ブランド戦略課とも連携して支援していく。

○また、今年からの新規栽培者2戸が、「紅い雫」の新たな販路拡大に取り組んでおり、東京都内や県内の有名ホテルやスイーツ店等のシェフから高評価を得て商談が成立し、生果や冷凍品など多様なアイテムで納入することとなった。

○同指導班は、県外出荷に向けた販売先とのマッチングや「紅い雫」を活かした新たないちご商品提供等に向け、県観光物産協会やブランド戦略課と協同し生産者の取組を計画的に支援していく。

## 八幡浜支局産地戦略推進室

### ■川田温州市場に向け出荷

- 産地戦略推進室は、JAにしうわと連携し川田温州の安定生産技術確立による産地化を図っている。
- 半樹摘果技術等の普及により生産も安定しつつあり、25日には関東の市場に向け令和元年産果実が初出荷された。
- 今年は、昨年より約2t多い26tの出荷となり、価格については、かんきつ販売情勢が厳しい中、昨年並みの価格を期待している。
- 川田温州は、主力の南柑20号に比べ糖度が約0.5高く食味が良いことから、市場での評価が高く、安定生産技術の確立・普及、および生産拡大について今後もJAと連携し産地化を推進する。



黒箱「千両」に入れ出荷される川田温州

### ■たいきの柿、香港へ輸出拡大

- JA愛媛たいき柿部会は、今年産柿4.8トンを経済圏に輸出した。
- 昨年の香港初輸出（冷蔵富有柿2トン）で品質に加え顧客の評判とも秀でていたことから、輸出業者と現地パイヤーに出荷量拡大を強く望まれていた。そこで、今年は9月末から刀根柿、10月末から富有柿、12月中旬の冷蔵富有柿まで期間、品種、数量とも拡大させた。
- 品質管理と丁寧な選果により現地での軟果などはなく、今年も順調な販売となった。
- 部会では、家庭用L・2Lサイズを主力に4Lサイズを贈答用とする国内販売に対し、3Lサイズの新たな販売の選択肢として輸出に関心を持っており、今年の結果も踏まえて来年以降の取組みを検討する。
- 同室は、大洲農業指導班、部会、JA及び関係機関とも連携して高品質栽培技術や香港輸出の支援を継続する。



刀根柿は、気温の高い香港への初輸出に際し、個包装前にも品質を厳しく再確認



輸出用に個包装した柿（写真右下）を箱に手詰めして出荷

■■■ 情報の問合せ先一覧表 ■■■

文中略称	正式機関名	所在地および連絡先
東予	東予地方局産業経済部 産業振興課	西条市丹原町池田 1611 TEL:0898-68-7322 FAX:0898-68-3056
四国中央	東予地方局産業経済部 産業振興課地域農業育成室 四国中央農業指導班	四国中央市中之庄町 1684-4 TEL:0896-23-2394 FAX:0896-24-3697
今治	東予地方局産業経済部 今治支局 地域農業育成室・産地戦略推進室	今治市旭町 1-4-9 TEL:0898-23-2570 FAX:0898-22-9724
しまなみ	東予地方局産業経済部 今治支局地域農業育成室 しまなみ農業指導班	今治市伯方町木浦甲 4637-3 TEL:0897-72-2325 FAX:0897-72-1912
中予	中予地方局産業経済部 産業振興課	松山市北持田町 132 TEL:089-909-8762 FAX:089-909-8395
久万高原	中予地方局産業経済部 産業振興課地域農業育成室 久万高原農業指導班	上浮穴郡久万高原町入野 263 TEL:0892-21-0314 FAX:0892-21-2592
伊予	中予地方局産業経済部 産業振興課地域農業育成室 伊予農業指導班	伊予市市場 127-1 TEL:089-982-0477 FAX:089-983-2313
南予	南予地方局産業経済部 産業振興課	宇和島市天神町 7-1 TEL:0895-22-5211 FAX:0895-22-1881
鬼北	南予地方局産業経済部 産業振興課地域農業育成室 鬼北農業指導班	北宇和郡鬼北町興野々1880 TEL:0895-45-0037 FAX:0895-45-3152
愛南	南予地方局産業経済部 産業振興課地域農業育成室 愛南農業指導班	南宇和郡愛南町城辺甲 2420 TEL:0895-72-0149 FAX:0895-73-0319
八幡浜	南予地方局産業経済部 八幡浜支局 地域農業育成室・産地戦略推進室	八幡浜市北浜 1-3-37 TEL:0894-23-0163 FAX:0894-23-1853
大洲	南予地方局産業経済部 八幡浜支局地域農業育成室 大洲農業指導班	大洲市田口甲 425-1 TEL:0893-24-4125 FAX:0893-24-5284
西予	南予地方局産業経済部 八幡浜支局地域農業育成室 西予農業指導班	西予市宇和町卯之町 3-434 TEL:0894-62-0407 FAX:0894-62-5543